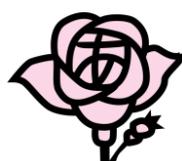


令和6年度

学校評価報告書



綾瀬市立早園小学

1 学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では「よく考える子」を学校目標の一つとしてその具現化を図っています。重点目標「勇気を出してまず一歩 互いに認め合う早園っ子」の育成のために児童が主体的に学び、他者と関わりながら学習できるように授業改善に取り組んでいます。

児童 設問 「わたしは進んで学習に取り組んでいる。」



保護者 設問 「お子様は、意欲的に学習している。」



教職員 設問 「『よく考える子』を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。」



今後に向けて

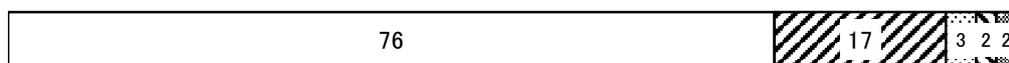
児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。昨年度より児童が進んで取り組んでいると回答している児童が増えたので、今後も授業づくりの研究を続けていきます。しかし、「あまり思わない」「そう思わない」と感じている保護者が22%いるので、保護者にも学校での取組が伝わる方法を検討します。

2 児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。

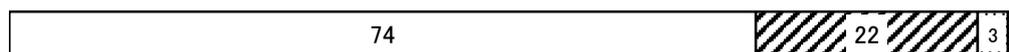
学校の取組

本校では、学校行事や特別活動に取り組むにあたって、活動のめあてを明確にし、児童が主体的に活動できるようにしています。行事や縦割り活動（キラキラタイム）では、高学年が上級生の自覚をもって活動に取り組んだり、下級生に接したりすることを意識しています。

児童 設問 「わたしは、運動会や遠足、キラキラタイムなどに楽しく参加している。」



保護者 設問 「あなたのお子様は、運動会や遠足、キラキラタイムなどに楽しく参加している。」



今後に向けて

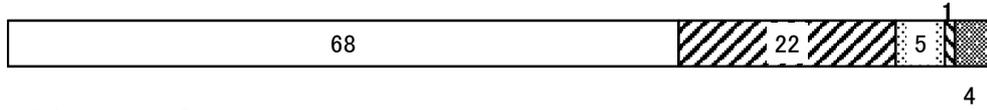
昨年度同様、児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。運動会や遠足において、児童の発達段階に応じためあてを明確に伝え、児童が主体的に取り組んでいくことができるように指導していきます。また、縦割り活動（キラキラタイム）では、児童同士のつながりが深まっている姿が見られるので、今後も計画・実施していきます。

3 学校は、「心豊かな子」を育てる指導を積極的に行っている。

学校の取組

本校では「心豊かな子」を育てるために全ての教科指導や学校行事、特別活動等において感謝の気持ちを大切にした取組を行っています。また、縦割りグループで高学年主体で活動をしたり、ペア学年で掃除をしたりする取組をしています。

児童 設問 「わたしは、友達と仲良くしている。」



保護者 設問 「お子様は、友達と仲良くしている。」



教職員 設問 「『心豊かな子』を育てる指導を積極的に行っている。」



今後に向けて

児童も保護者も「友達と仲良くしている」という肯定的な回答が多く見られます。しかし、昨年度より児童・保護者の肯定的な意見が少なくなっています。再度、全ての教育活動を通して見直し、思いやりの心と規範意識を大切にした指導を行い、自分を大切にすることはもちろん、相手のことを思いやることのできる「心豊かな子」の育成に全教職員で努めていきます。

4 児童は友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校では、児童一人ひとりの実態を把握し、より良い学級づくりに活かしています。また、全学年で毎月スクールアンケートを行い、いじめの早期発見、再発防止に活用しています。児童指導委員会や職員会議だけでなく、日常的にも情報交換を行っています。

児童 設問 「わたしは、学校が楽しい。」



今後に向けて

8割強の児童が学校が楽しいと回答し、学校生活に満足していると思われます。しかし、否定的な回答をした児童が昨年度同様の12%いる。今後さらにより注意深く一人ひとりの児童を見守り、学習面・生活面ともに満足できる生活を送れるように、毎日の児童の変化に敏感に感じられるよう全教職員が連携して取り組んでいきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

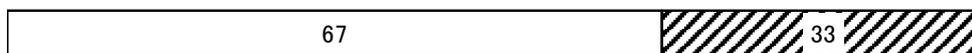
学校の取組

本校では、いじめの早期発見・再発防止のため毎月スクールアンケートを実施しています。実施後は、聞き取りをしたり、指導したり迅速かつ組織的な対応により問題が早期に解決できるようにしています。担任だけでなく、学年、児童指導委員会、いじめ防止対策委員会など複数の目で児童の様子を見取るように心がけています。

保護者 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」



教職員 設問 「学校はいじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」



今後に向けて

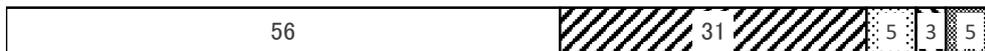
昨年度、保護者の肯定的な意見が増えたが、今年度は一昨年と同様にもどってしまった。教職員は肯定的な意見が増えているので、保護者に認知されるための取組を学校として考えていきます。

6 学校は、「健康な子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。

学校の取組

学校教育目標の一つである、「健康な子」を育てる取組として縦割り活動で外遊びや室内あそびなどをする「キラキラタイム」を実施しています。体育の授業や休み時間の外遊び等でも健康な子の育成を目指しています。また、保健指導を計画的に実施し、自分の心身の状態に目を向け、健康への意識を高めるために、健康教育の充実を図っています。

児童 設問 「わたしは、健康や安全に気をつけ、元気よく生活している。」



保護者 設問 「あなたのお子様は、健康や安全に気をつけ、元気よく生活している。」



教職員 設問 「『健康な子』を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

教師が積極的に取り組むことで、健康に気をつけていると回答した児童が昨年度と同様、多くいました。今後も自分の身体を自らが守ることの大切さを意識させていこうと思います。また、年3回の「生活リズム大作戦」の取組を継続し、学習と生活リズムの両方の向上を図ります。

統し、家庭と連携し生活の基盤となる「規則正しい生活習慣」の定着に向けて努めていきます。

7 学校は、「最後までがんばる子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。

学校の取組

学校教育目標の一つである、「最後までがんばる子」を育てるために全ての教科指導や学校行事、特別活動等において諦めない気持ちを大切にした取組を行っています。昨年度と同様の重点目標とし、諦めない（まず一步を踏み出す）気持ちをもたせられるように取り組んでいます。

児童 設問 「わたしは、どんなことにも あきらめずがんばっている。」



保護者 設問 「あなたのお子様は、何事にも諦めずに取り組んでいる。」



教職員 設問 「最後までがんばる子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

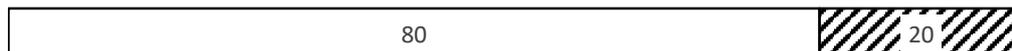
昨年度と同様児童・保護者とも肯定的な意見が多くありました。しかし、2割程度の児童・保護者が取り組めていないと考えています。児童には、授業を中心に言葉がけをしたり、保護者には児童が諦めず取り組んでいる姿を個別面談などで伝えたりして、全職員で「最後までがんばる子」の育成に努めていきます。

8 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

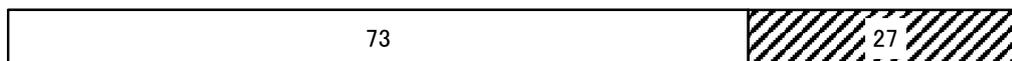
学校の取組

本校では、毎月施設・設備の安全点検を職員で分担して行っています。また、遊具など児童が安全に活動できるように複数の目でチェックし、年1回業者に点検を依頼し、安全な環境づくりに努めています。学期始めと終わりの下校指導では、通学路に危険個所はないか確認するとともに児童が安全に下校できているかについて指導しています。

教職員 設問 「児童の安全のための指導を行っている。」



教職員 設問 「児童の安全のために施設点検・整備を行っている。」



今後に向けて

教職員は児童に対して積極的に指導をしていることが伺えます。今後も日常の安全指導とともに避難訓練、交通安全教室、不審者待避訓練など安全教育の本室を回りまわす。また、学校の施設点検・整備については今後も定期的に行な

元夫を凶りより。また、子儀の施設点検・登傭については今後も定期的に117
安全点検を行うだけでなく、日頃からの登下校時の歩き方やマナーについて注
意を払い、共通理解のもと児童の安全に努めていきます。

9 学校は児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、教育相談コーディネーターや特別支援学級担任、養護教諭を中心に支援の方法を話し合いながら、個々の児童に応じた支援を組織的に行っていきます。また、学習支援者による個別指導やティームティーチング授業を実施しています。週一回スクールカウンセラーが来校し、児童や保護者の相談活動をしています。校内や他機関と連携したケース会議や巡回相談を行うことで児童の困り感を軽減できるように努めています。

教職員 設問 「児童に応じた支援の工夫をしている。」

53

47

今後に向けて

肯定的な意見が多いのですが、保護者の願いや児童支援の方法が多様化することで児童一人ひとりに合わせた指導の難しさがあり、「ややそう思う」と回答する割合が5割弱であると考えられます。今後も、児童指導委員会、ケース会議等で必要な支援を検討したり、職員会議後で情報交換の時間を設けたりして組織的な支援を引き続きしていきます。また、担任だけでなく、学年、教育相談コーディネーターや特別支援学級担任、養護教諭など学校全体で支援することをより一層深めていきます。

10 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

校長の学校教育目標（グランドデザイン）を受けて、総括教諭を中心とした4つのグループを編成し、学校運営上の様々な業務や課題に取り組んで、学校教育目標の具現化を図っています。グループ会議は、メンバー全員で所掌事項について話し合い、協働体制でグループ業務に取り組む場となっています。教職員一人ひとりが学校の担い手として自覚をもち、さらに各グループが連携して学校運営にあたっています。

教職員 設問 「校長のビジョンのもと、企画会議・グループ会議を中心に学校運営に努めている。」

66

27

7

今後に向けて

肯定的な意見が多くあるのは、それぞれの所掌の役割が明確で、業務が進んでいることが読み取れます。学校教育目標の具現化のためカリキュラムマネジ

「カリキュラムマネジメント会議など全教職員で共通理解を図り、学校運営を進めています。今後も各総括教諭を中心としたグループですが、人数が少ないため一人ひとりが自覚をもっている結果なので、引き続き取り組んでいきます。」

11 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

学校の取組

本校では、校内研究に力を入れ、担当講師や指導主事の指導・助言を生かし、少しずつバージョンアップしながら授業改善に取り組んでいます。また、提案授業に向けて、単元名設定会や模擬授業を多くの教員で検討しています。研究協議では3人ぐらいのグループをつくり、活発に意見交換をしています。さらに、研究授業を通して学んだことをリフレクションすることで全教職員の指導力向上に努めています。

教職員 設問 「教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。」



教職員 設問 「教職員の力量を高めるための研修に取り組んでいる。」



今後に向けて

「学び方を身に付けた子」を目指した授業改善やミニ研修で様々な指導法や実技を体験し、意見交換しています。また、他学年と情報交換を行ったり、カリキュラムマネジメント会議を行ったりしています。これらのことから9割以上の教員が肯定的に捉えていることが伺えます。今後も授業改善やミニ研修など様々な取組を継続・充実させて授業改善に取り組めます。

12 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

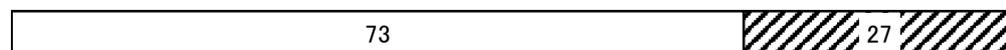
学校の取組

本校は、児童の実態を把握するために、担任だけでなく複数の目で児童の様子を見取り、放課後等時間を見つけて情報交換を行っています。担任だけでなく、複数の目で見ることで児童の様々な面を知ることができ、実態を正確に把握できています。また、支援が必要な場合には教育相談コーディネーターや養護教諭、管理職と情報共有し、児童の成長の手助けを学校全体で行っています。

保護者 設問 「学校は、よりよい児童の成長のため指導を工夫している。」



教職員 設問 「児童理解に努め、よりよい児童の成長のために指導を工夫している。」



今後に向けて

教職員 保護者から肯定的な音目が多く目られました。その中で、「そろ田

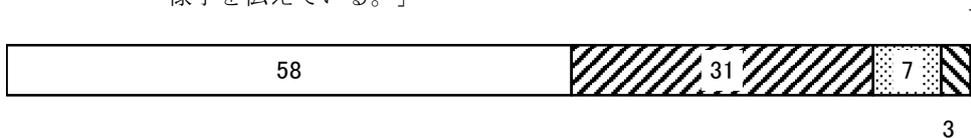
教職員、保護者からの肯定的な意見が多くなりました。その中でも「嬉しい」と回答した教職員が増えたことが伺えます。今後も、全職員で児童の成長を常に意識していこうと思います。しかし、保護者の「あまり思わない」「思わない」「分からない」という意見は昨年度同様、少なくないので、保護者に伝わる方法を考えていこうと思います。そして、地域や保護者からの声を真摯に受け止め、教育活動に反映させていきます。

13 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

学校の取組

本校は、たよりの発行や懇談会、個別面談などの機会を通して学校運営に関する情報や児童の活動の様子などを具体的に伝え、教育活動に理解が得られるようにしています。また、本年度からホームページやC4thなどを活用したことやPTA広報紙でも紹介したことも保護者が情報を知るための手立てとなったと考え、今後も継続していきます。

保護者 設問 「学校は、学校だより、学年だより、懇談会、面談等を通して子どもたちの様子を伝えている。」



教職員 設問 「学校だより、学年だより、懇談会、面談等を通して、保護者との連携を図る取組をしている。」



今後に向けて

毎年保護者の肯定的な意見が9割となっています。しかし、今後も家庭や地域に学校の教育目標、重点目標など目指す児童の姿について積極的に発信していく必要があると考えます。学校行事や地域の活動の場を中心に連携を深め、「児童のよりよい教育活動」をテーマに学校と地域と保護者が同じ方向を向けるように連携を図っていきます。